

2021 年度秋季大会 研究発表申し込み

氏名：

1. ミヤグマル アリウントヤー
2. シャクダル エンクバヤル
3. スキドルジ エルベグザヤ

氏名のローマ字表記：

1. Myagmar, Ariuntuya
2. Shagdar, Enkhbayar
3. Sukhdorj, Elbegzaya

所属：

1. 早稲田大学
2. 環日本海経済研究所
3. 日本モンゴル教育病院

専門分野：

1. 開発教育
2. 経済
3. 医療

発表のタイトル：

「モンゴルにおけるコロナ禍の現状：医療・経済・政治体制の対応策からみえてくる課題」

発表要旨 (600 字～800 字程度)：

モンゴルは、世界各国で多数の感染者や死者が発生していた 2020 年に新型コロナの影響が最も少ない国であったが、予防接種が強化された 2021 年には全人口に占める感染者数で米国とインド等に次ぐ上位の国に転じた。なぜ、国によって感染者における増加・減少傾向に偏りがあるのか。

本論文では、全人口の約 10% までもが感染したモンゴルのコロナ対策を考察することを目的とする。具体的に、初の感染者が登録され、国境閉鎖が始まった 2020 年 3 月以降のコロナの状況とその対策がいかに変化しているのかを、政府による医療、経済、政治の諸措置から明らかにする。その際に、先行研究に学び、「三連結体制(Three-coupled system)」比較方法を分析の枠組みとしたⁱ。

分析手法としては、国会や政府関連機関が公表した法令や決議、統計データ等を主な情報源とし、文献分析を用いた。そして、モンゴルでのコロナ対策の変化を、2020 年の 11 月のロックダウンを境に、2020 年 3 月から 11 月まで、2020 年 12 月から 2021 年 9 月までの二つの時期に区分し、前者を「コロナの潜伏期」、後者を「コロナによる被害期」と名付けた。

分析結果、モンゴル政府の対策は、当初から新型コロナを「海外からの侵入者」としてみなし、「国内への侵入を防ぐ」ことを最優先に、医療に重点を置く完全統制措置を取っている。経済や政治の側面は、統制的かつ場当たりの対応がみられるが、医療措置の公表ほど紹介されておらず、ゆえに社会に波紋を広げている。「三連結体制」の枠組みから見れば、モンゴルではコロナ禍を克服するために医療・経済・政治体制を互いに関連付けた対策が見受けられない。コロナ感染の抑制は、これら体制の政策がどれぐらい密接に相互関連付けられ、社会のコンセンサスがどれぐらい得られているかに左右されるため、コロナ禍という現象は切り離されがちな社会の在り方自体に新たな課題を投げかけている。

ⁱ 同方法は、ハーバード等大学による世界 16 カ国の比較共同研究 *Comparative Covid Response: Crisis, Knowledge, Politics* (2021 年 1 月) において用いられているが、コロナ対策関係の他の論文においても、医療、経済、政治の連結の重要性が取り上げられている。